

# 社会連帯ニュース

平成 29 年第一号

発行者：一般社団法人 日本社会連帯機構 北関東地方委員会  
〒336-0018 さいたま市南区南本町 2-5-15MM初イ 201  
☎:048-844-0085 FAX:048-844-0086  
発行責任者：島野正紀（委員長）

## ニュース発刊にあたって

「日本社会連帯機構」は、今の社会や地域で課題となっているテーマを自分たちの身近にとらえ、人・もの・資金＝地域資源を出し合い、人と人とが様々な形で手を結び、連帯していくことで非営利・協同のネットワークを広げるためにつくられた組織で、地域の再生につながる活動をしています。

誰でもが参加でき、会員になることから出発し、多くの市民が共に社会的な課題に向き合い、地域での協同を生み出す活動に取り組みます。

そしてその中で新しい仕事おこしにも取り組んでいきます。

仕事おこしを通して、失業問題や地域の課題を解決する取り組みを行っています。発足以来多くの方々にご賛同いただき、東日本大震災の復興支援などを地域の皆さまと共に活動してきました。北関東地方委員会では、より多くの方々にご活動を知っていただき、共に地域課題や解決に向けた活動や取り組みを情報発信するために、この度「社会連帯ニュース」を発刊する運びとなりました。どうぞ今後とも内容につきましてのご意見、ご指導をお願い申し上げます。

（日本社会連帯機構 北関東地方委員会委員長 島野正紀）

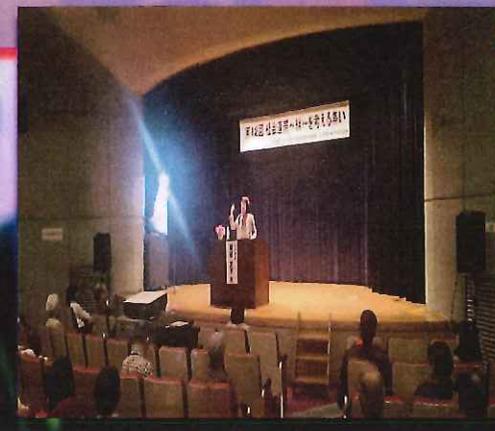
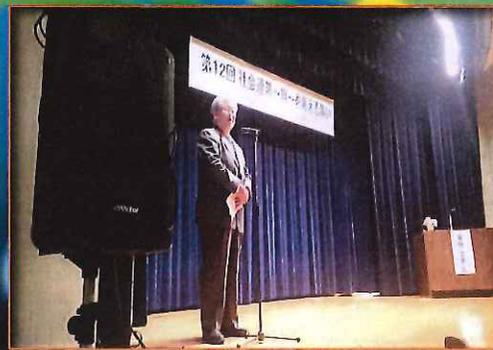
## ～絆～を考える集会

2017年5月14日(日)、第12回社会連帯集会「～絆～を考える集会」が東大宮コミュニティセンターで開催されました。内容は、映画「校庭に東風（こち）ふいて」上映会と、原作者である柴垣文子氏の記念講演会の二部構成でした。

「校庭に東風ふいて」は「場面緘黙症」の女生徒と教師、同級生との交流や葛藤、支え合いなど、「声なき声」に耳を傾けることの大切さを描いた作品で、沢口靖子さんが主演です。会場からはすすり泣く声も聞かれ、感動的な映画です。

柴垣文子氏は多忙な中、当集会に駆けつけてくれました。撮影でのエピソードや出演者との交流などの裏話、子ども達が置かれている環境や学校現場での課題と地域や周囲の人たちが支え合うことの大切さを語っていただきました。

当日は県内外から98名の方が観覧、当事者やその家族の方も参加され、「親として娘が安心して過ごせる環境を作ること、そのままを包み込むことが子どもを輝かせるのだと感じました」とご感想を寄せていただきました。



# ～それぞれの活動紹介～



## らくらくサポート活動

(那須塩原地区センター)

平成 27 年 6 月に 4 名のサポーター登録から開始。有償ボランティアによる生活支援らくらくサポート活動は現在(平成 29 年 6 月)ではサポーターの登録が 28 名になり利用者登録も 41 名に広がってきました。

サポートの内容は買い物支援や病院支援が殆どですが、介護保険では補えない内容が多い為、地域の包括支援センターや福祉施設との連携で活動をしています。毎月 1 回会議を行い活動内容や問題提起をして常に改善しながら活動に取り組んでいます。最近ではサポーターが高齢者のため、チケット制を導入、共に学ぶ学習会を行い支援がしやすい環境を整えています。

地域のイベントにも積極的に参加し、告知活動を協力しながら行っています。いつまでも安心して在宅で過ごせる地域作りを心掛け、日々たのしみながら活動に取り組んでいます。



## 深谷ななマルシェに参加しました!

(埼玉北部地区センター)

平成 29 年年 5 月 28 日(日)今回で 9 回目となる、手作り作家さんや、地域の飲食の一大イベントが開催されました。来場客数は 300 人を超え、お客様も出店側も満足のイベントとなりました。元々、地域の手作り作家さんや飲食店の活動の応援・促進が最大の目的であり、社会連帯機構北関東地方委員会としても過去 3 回程関わりました。

とうふ工房地区センターでは、地域の人達とのネットワークを駆使して、地域を盛り上げようと日々活動しています。



## みんなの食堂

(矢板地域福祉事業所)

放課後等デイサービス「りんごの木」



りんごのキッチン

子ども食堂も今回で 4 回目、過ごしやすい天気の中今回行うことが出来ました。矢板高校調理科および矢板中学校の学生・ぶらぶらクラブさん・地域の皆さま・木幡東公民館のご協力を頂きました。地元の佐々木商店さんよりジャガイモ 15kg はじめ色々な野菜、まなびやさんからプリン 80 個と多くのご寄付を頂きました。ぶらぶらクラブ佐山さんから玉ねぎのご寄付もあり野菜を殆ど買わずに済みました。

今回はじめて、放課後等デイサービス「りんごの木」をご利用されているご家族さんが「りんごのキッチン」に来て下さりました。親御さんにお話を伺うと「食べられない子たちに行き渡らなくなるかな?」というご心配と「頑張ってください」という温かいお声をいただきました。

